



市長とランチミーティング 23

石垣島から捨て猫・捨て犬をゼロに！

第23回「市長とランチミーティング」は5月22日（火）に「石垣島しっぽの会」の皆さんと行われました。

市長 ランチミーティングでみなさんとお話ができる機会を頂きありがとうございます。

先日は市立図書館にて写真展「ラストポートレート」を開催していただきましてありがとうございます。問題になっていく野良猫・野良犬の問題、殺処分の方の多さの問題等、行政としても取り組んでいきたいので様々な意見を聞かせてください。

早川会長 先日は市長も写真展に足をお運び頂きありがとうございます。現在サザンゲートの向こう側の公園が野良猫であふれていて、犬猫が好きな人もいるかもしれないですが、実際に利用者が迷惑を被っている場合もあり、必ずしも犬や猫の為というわけでもなく、市民生活や生活環境を守るためにもしっかりと野良猫、野良犬の管理、公園の管理をしていくことで人間の生活環境も向上していくものだと思います。

市長 実際に野良猫や野良犬が多くいることで、公園を利用したくても利用を敬遠する利用者（子供達を連れて行けない）もいたり、公園としての機能を十分に果たせなくなってしまう事も問題ですね。

写真展の開催についての報告

会員 5月16日～20日の間、石垣

市立図書館で写真展「ラストポートレート」を開催しました。この写真展は私たち「石垣島しっぽの会」（旧石垣島しっぽくらぶ）の活動の第一歩ということで犬や猫の現状を知ってもらいたい事と、不幸な命を少しでも減らしたいという気持ちから開催いたしました。写真展には重いテーマにもかかわらず小さなお子さんからお年寄りまで254名の方がご来場くださいました。会場ではアンケートをご記入頂いたのですが、大変貴重な意見を多くいただきました。その中から一部紹介します。



「何も悪い事をしていないのに殺されるなんてかわいそう（小学生）」「犬、猫が殺処分されている数がこんなにも多いことに驚きました（一般）」「飼いだを散歩させなかったり、不妊手術をしていないため望まぬ子犬を産み、困ったら保健所へ、生き物を飼う以前の問題（一般）」など犬猫を飼うモラルの低さを指摘する厳しい意見もありました。一般市民の捨て猫や捨て犬に対する関心が高く、改善を求める声が多くあるということがわかりました。この写真展をきっかけにして、飼い犬や飼い猫は終生責任をもつて家族同様に大切にすること、必ず避妊去勢手術を行うこと、小さな命を粗末にせずに大切にしていこうという心が広がり、石垣島から捨て犬や捨て猫がゼロになる日がくることを期待しています。

石垣市の捨て犬・猫の現状

会員 捨て犬、捨て猫の状況といっても正確にその数を数えたデータはありません。八重山保健所が今回の写真展に合わせてデータを提供してくれましたので紹介します。平成19年度から平成23年度において八重山管内にて捕獲した頭数と引取りをした頭数、殺処分した頭数のデータを頂きました。環境省から平成19年2月に出来るだけ殺処分を減らして生存の機会を与える事という通達が全国に出されたわけですが、実際平成19年度以降八重山管内で殺処分が減った

かというところ、平成19年度は捕獲と引取りで570頭が保健所に入っています。そのうち85%が殺処分されています。果たしてこれが生存の機会を与えた数字なのか疑問なわけですね。翌20年度も殺処分は全体の83%、21年度も殺処分は全体の84%でした。この3年間はまったく生存の機会を与えようとした数字とは思えません。しかし、平成22年度になると捕獲、引取り件数が340頭で殺処分が57%まで下がっています。翌23年度は少し増えて69%となっています。現在では少し改善されて殺処分の数が減ったのかなと思っています。捕獲頭数も引取り頭数もそんな劇的に変化は無く、捕獲頭数よりも引取り頭数のほうがはるかに多いという現状です。捕獲の倍以上も飼主から引き取っています。これが何を意味するかというと、避妊手術をしないが為に望まない子犬が生まれて面倒がみられずに保健所へ、ひどい場合には母親ごと保健所にとという例もあります。そしてそのほとんどが殺処分されるといいうわけです。殺処分を減らして、なるべく新しい飼い主へ譲渡するというのが環境省が全国へ通達した方針で、全国の保健所が何とかしようとしています。愛知県は全国でも捕獲、引取り頭数がワーストで、愛知県では保健所に動物が持ち込まれた際にはまず説得する「この子がどうなるのか知っていますか？」



「殺処分されるのですよ」と色々説明したり有料化するなどして処分件数を4割減少させることに成功したそうです。八重山保健所でも同様に飼い主さんを説得したり、有料化を行っています。が十数%しか減っていないということなので、まだ生存の機会を与えるにはほど遠い現状だと思います。それと、環境課の職員の方にもお願いしたいのが犬の登録頭数のデータを出していただきたいと思っています。狂犬病の予防接種なので登録の受け付けもしていると思います。が何年度に何頭登録されて、何頭死んでいるのか。また狂犬病の予防接種を受ける割合などのデータを持っていてと思うので公表して目に見える様にして頂きたいです。まず、実情を知る第一歩なのではないかと思っています。

仲本環境課長 今回春の大掃除で担当者が家々を訪問して回る際に犬の数をカウントするようにしています。集合住宅はちよつと難しいですが一戸建ての家は調査するようにしています。

会員 それは良い試みですね。現在把握している登録数と、実際訪問して回って調査した数を照らしてみれば、また実情が浮かび上がってくるかもしれませんね。

わんわんクラブ会員 わんわんクラブは1999年に活動を開始して今年で13年目になります。2005年までは個人の資産を運用して活動していましたが、2006

年からカレンダーの作成・販売や寄付を募って活動資金に充ててきました。年間およそ230万円かかっています。それを個人でまかなって来たわけですが、引取数に関しては、保健所から50%、あとは飼い主さんからの引取、そして自分で拾ってきた分になります。新しい飼い主さんへの譲渡先としては市内だけでは厳しいので県外にも70%近く送っています。本土にはあまり雑種がおらず、去勢、避妊を徹底しているのも雑種が少なくなっています。しかし、中には雑種が好きな方も多くいるので、私のHPを見て雑種犬の引取りを申し込まれる方が多いです。

会員 わんわんクラブさんが1年で譲渡している数は40匹程度だと思えますが、保健所で譲渡にこぎ着けている数も同じくらいです。個人一人で頑張っている数と、行政が組織で行っている数が同じというのはおかしいと思います。

わんわんクラブ会員 私が移住してきた頃に比べると、野良犬や野良猫は減ってきていると思います。動物病院が増えたりトリミングのショップが増えたり、ペット可のマンションが増えたりして環境が変わっている事もあり、良い方向に進んでいると思いますが、あと一歩がたりないと思うので、そのあと一歩を行政の方でお力添え頂きたいと思っています。

野底課長補佐 行政側の予算的なことを言いますと、早川会長から

一括交付金を利用できないかという提案がありましたので、まだ確定はしておらず調整中ですが一括交付金へ計上しています。

捨て犬捨て猫を減らすには

早川会長 最後にいくつか提案させて頂きたいのですが、犬猫の保護というのは殺処分も含めて出口部分になるのですが、保健所と協力した形で譲渡会ができないか検討してほしい。保健所では見に来る人がいればその都度譲渡していると思うのですが、我々がそれぞれ保護している犬や猫も一緒に譲渡会が開催できないかなと思っています。市のほうにも協力して頂きたいとおもいます。開催する場所さえ提供していただければ私たちはいつでも譲渡会を開く事は可能です。もう一つは入口論になりますが、避妊去勢について対象を飼い猫・飼い犬にしてしまうと莫大な資金が必要になるので、対象を保護犬、保護猫に絞って避妊去勢とワクチン接種について助成して頂けると保護する人も楽になり、保護する人も増えるかもしれません。譲渡を受ける側の新しい飼い主さんも自分で避妊去勢、ワクチン接種する必要があるないので、保護犬・保護猫をもらった方がお金が掛からないから安心できる。あとは、教育の現場でこういった現状について総合学習の時間に身近な生き物である犬や猫の命について学ぶ機会を設けていただけないかと考えています。私たちの方でも教材を集めて協力していきたい

と思います。最後に防災計画の中で震災時に犬や猫、その他ペット、家畜を含めて取り残されて大変なことになっているという状況なので、もちろん避難所での問題もありますが、まずは連れて逃げないことには野生化してしまつて手が付けられなくなるので、震災等の場合には飼い主が責任をもって同行避難できないかを考えて欲しいです。今回東北の震災の時にペットの同行での避難所への出入りが認められずに避難が遅れたり、ペットと車の中で過ごしてエコノミー症候群になったりした例があるので検討して頂きたいです。



6月24日に行われた譲渡会の様子（浜崎公園）